

## 第6学年 総合的な学習の時間指導案（平成15年度）

与那原町立与那原小学校 6年

### 1. 学年のテーマ 「輝け命」

### 2. 単元名 「沖縄戦に学ぶ『命どう宝』」

### 3. 単元目標

- ・ 沖縄戦の様子を文献資料やインターネット、戦没者名簿調査などによって調べ、沖縄戦の具体的な事実を発見し、戦争の悲惨さを知る。
- ・ 沖縄戦の様子から、命の尊さを実感し平和を求める心情を育てる。
- ・ 調べた事や伝えたいことを、全校平和集会の中で、下級生にパソコンや寸劇などでわかりやすく伝える事が出来る。

### 4. 単元の設定理由

#### ① 教材観

- ・ 沖縄県は、日本で唯一の地上戦が行われた土地であり、そのために多くの住民が巻き添えになり悲惨な歴史があったところである。しかし、戦後58年を過ぎ、直接の戦争体験者の高齢化による減少や核家族化の進展で、戦争体験の継承が困難になっている。沖縄戦の悲惨な歴史的事実を戦争体験者からの聞き取り調査や戦争遺跡の見学などを通して知ることにより、自ら学び・考える力を育て、平和の大切さを実感させ、再び戦争の過ちを、繰り返させないことにつながり、さらには、自分の生き方を探っていく機会にもなると考える。

#### ② 児童観

- ・ 子どもたちは、沖縄戦については、毎年6月の平和旬間などで、図書館の特別展示写真や、書籍、全校一斉に放送されるビデオ放送などで、概略は知っている。しかし、家族から直接沖縄戦の話聞いたことがある児童はごく一部であり、沖縄戦の遺跡などを見学したこともほとんどいないのが実態である。従って、「慰霊の日」の日付は知っていても、どうして6・23が「慰霊の日」に設定されているのかも知らない。さらに沖縄戦での、沖縄県民や与那原町民の戦没者数についても知らない。そこで、本単元では、「平和の礎」に刻銘されている与那原町民の戦没者名簿の分析を通して、沖縄戦学習を展開させ、平和や自分の生き方について考えさせるように指導していきたい。

#### ③ 指導観

- ・ 平和祈念資料館やアブチラガマ（糸数壕）など戦争の傷跡にふれ、平和の礎に刻まれている与那原町の戦没者名簿を分析して、与那原町から見た沖縄戦の具体的事実を理解させ、主体的・意欲的に学習に取り組ませる。
- ・ 体験学習や調べ学習を通して得た、自分の思いや考えを他に伝えようとする力を身につけさせるために、グループ討議を経て、グループの意見としてまとめ、「発表名人」や「パワーポイント」などのプレゼンテーションソフトを活用して、相手（下級生）

に分かりやすく伝えるためのまとめ方や、発表方法を工夫させたい。

④ 評価の方法

- 「学び続ける力」「表現する力」「共に生きる力」の3つの身につけさせたい力から、評価基準を設定し、指導と評価の一体化を図る。
- ・ポートフォリオ評価（学習過程評価）
- ・自己評価カード（ワークシート）
- ・他者評価（児童同士の相互評価、児童と教師の協同評価、保護者などの第3者の評価）

5、単元計画 「沖縄戦に学ぶ『命どう宝』」 全45時間

学習過程	時間	学習活動	支援・留意点	◎評価 (育てたい資質・能力)	評価方法
ふれる・出会う	5	1、沖縄戦について考えよう。 ①アニメ映画「對島丸」、「戦さ場の童（わらび）」のVTRを観て、58年前の沖縄戦について考えよう。 【学年】 ②学童疎開のお話を聞こう。 【学年】	○毎年、6月になると学校全体で、「平和旬間」を設けて、戦争と平和についての学習を行っている。 その既習事項に視点を当てた活動をさせる事により、沖縄戦についてより深く考える意欲を高める。 ○地域人材の活用（学童疎開体験者） ○VTRを観たり、お話を聞きながら、分かったことや疑問点をメモさせる。	◎沖縄戦について興味を持ち、自分の課題を見つける事が出来る。 ○地域の人や歴史に関わることができる。 ○相手の立場を考えて交流することができる。	・行動観察 ・自己評価
つかむ	12	2、学習の課題を見つけよう。 ①『与那原町戦没者名簿』についての説明を聞き、名簿の分析を通して、沖縄戦について、自分の調べたいテーマ（課題）を決める。	○『与那原町戦没者名簿』を字ごとに分担し、「戦死年月日」「戦死者数」「戦死性別」「戦死年齢」「戦死理由」「戦死場所」などのテーマごとに集計・分析させる。	◎沖縄戦について興味を持ち、自分の課題を見つける事が出来る。 (学び続ける力)	・資料分析 ・ワークシート ・見学のしおり ・自己評価

か む		<p>【学級】→【個別】</p> <p>②「平和祈念資料館」「平和の礎」「アブチラガマ」を見学して、自分のテーマについて調べる。</p> <p>【個別】</p> <p>③学級全体のテーマ（課題）を決める。</p> <p>【学級】</p>	<p>○戦争遺跡を見学し、沖縄戦を追体験させることにより、各自のテーマ設定のためにイメージ化を図る。</p> <p>○調べたいテーマや理由を、明確に持たせる。</p>		
見 通 す	6	<p>3、見通しをもった学習計画を立てる。</p> <p>①それぞれのグループで、課題解決に向けて学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたいこと、調べたい理由</li> <li>・方法と役割分担、活動日程</li> <li>・まとめ方と発表の方法 【グループ】</li> </ul> <p>②ポートフォリオ検討会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を明確にさせるために検討会をする。</li> </ul> <p>【教師→グループ】</p> <p>③取材の準備と練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューの仕方</li> <li>・アポの取り方</li> <li>・電話のかけ方</li> <li>・コンピュータやインターネットの使い方 【グループ】</li> </ul>	<p>○ワークシートを活用し、自分の課題を調べらるための具体的な計画を立てられるようにする。</p> <p>○調べる計画が価値ある内容になっているか確認させる。</p> <p>○調べ方について様々な方法を紹介したり、資料を提供したりする。</p>	<p>◎見通しを持ち、解決するための計画を立てる事が出来る。 (学び続ける力)</p> <p>○みんなと協力し、お互いの良さや違いを認め合うことが出来る。 (共に生きる力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画表</li> <li>・ワークシート</li> <li>・子どもと教師の協同評価</li> <li>・自己評価</li> </ul>

<p>追 求 す る</p>	<p>17</p>	<p>4, それぞれの計画に従って活動しよう。          ①インターネットや書籍・資料から課題解決に必要な情報を集め、各学級のテーマに基づいた、各グループのテーマについて調べる。 【グループ】          ②平和集会を開こう。          ・平和集会の準備として、学級ごとにこれまで調べてきたことをまとめる。 【グループ】          ③全校児童の前で、各学級ごとに、テーマに従って発表する。  <b>(本時) 【全学年】</b></p>	<p>○各自の計画に従って、課題に合った情報を収集・選択できるように支援する。          ○「発表名人」「パワーポイント」の活用。</p>	<p>○自分の課題に必要な情報をいろいろな方法で集め、その中から自分の課題解決に必要な内容を選び、まとめに生かすことができる。          (学び続ける力)          ○追求活動の中で、共に学び、考えを深めることができる。          (共に生きる力)          ○伝えたいことを相手にわかりやすく発表し、互いに自分の意見を伝える事が出来る。          (表現する力)</p>	<p>・自己評価          ・行動観察          ・自己評価          ・他者評価          ・相互評価カード          ・自己評価          ・ワークシート</p>
<p>ま と め る</p>	<p>7</p>	<p>5, 調べたことをまとめよう          ①各グループのテーマを再確認し、仕事分担をしながら協力してまとめる。 【グループ】          ②発表会の準備をする。          ・発表の役割分担をする。          ・声の大きさに注意し、相手に聞こえるように大きな声ではっきり発表する練習をする。</p>	<p>○一人一人の個性が生かされる仕事分担をし、相手にわかりやすく伝えるための表現方法を工夫させる。          ○「発表名人」「パワーポイント」の活用。</p>	<p>○みんなと協力し、お互いの良さや違いを認め合うことができる。          (共に生きる力)          ○伝えたいことをイラストや写真、グラフなどの資料、情報機器を効果的に活用して、自分なりの方法でまとめることができる。          (表現する力)</p>	<p>・自己評価          ・作品          ・共同評価</p>

		<b>【グループ】</b>			
発信・広げる	3	<p>6, 発表会をしよう。</p> <p>①お互いに調べたことを発表する。</p> <p style="text-align: center;"><b>【学年】</b></p> <p>②学習の反省をしよう。</p> <p>・「沖縄戦に学ぶ『命どう宝』の学習を振り返って、感じた事、考えた事等を作文に書き、今後の自分の生き方に生かすようにする。</p> <p style="text-align: center;"><b>【個別】</b></p>	<p>○発表するときと、聞くときのマナーを意識させる。</p> <p>○メモを取りながら聞くようにさせる。</p> <p>○相手に聞こえるように大きな声で発表する。</p> <p>○自分が、今後どのように平和創造に関わっていくことが出来るか、自分の思いや考えを深めることができるようにする。</p> <p>○ポートフォリオを整理し、自分の成長を確認させる。</p>	<p>○伝えたいことをイラストや写真、グラフなどの資料、情報機器を効果的に活用して、自分なりの方法でまとめることが出来る。</p> <p style="text-align: center;">(表現する力)</p> <p>○平和を創造し、いろいろな人たちと共に生き、国際人として行動することが出来る。</p> <p style="text-align: center;">(共に生きる力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互評価</li> <li>・行動観察</li> <li>・ポートフォリオ評価</li> <li>・感想文</li> </ul>

## 6, 本時の指導 (35/45)

平成15年6月20日(金) 3校

時

6年1組、2組、3組 計96

名

会場 本校体育館

(1) 活動名 『平和集会を開こう』

(2) 本時のねらい

- ① 各学級のテーマにもとづき、グループの意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。
- ② 計画にもとづいて、調べ学習をしていく過程でこれまでの学習の経過・成果を発表し合い、考えを深めたり、学び合ったりすることができる。

(3) 身につけさせたい力

	評 価 規 準	評 価 方 法
学び続ける力	自分の課題に必要な情報をいろいろな方法で集め、その中から自分の課題解決に必要な内容を選び、まとめに生かすことが出来る。	評価カード 他者評価 (メッセージカー

共に生きる力	追求活動の中で、共に学び、考えを深めることができる。	ド)
--------	----------------------------	----

(4) 準備

大型スクリーン、パソコン3台、等

(5) 本時の展開

	学 習 活 動	支 援 ・ 留 意 点	評価 (方法)
導 入 5分	1, 本時のめあてを確認する。 ① 声の大きさや速さを工夫して、下級生にもわかりやすい言葉で伝えよう。 ② お互いに学び合おう。	・ 児童あいさつを通して、これまでの学習の経過を紹介し、本時の学習のめあてを確認し、発表の仕方・聞き方の視点を明確にする。	行動観察表 (教師)
展 開 35分	2, 全校平和集会をする。 ① テーマ ② メンバー紹介 ③ テーマ設定理由 ④ 調べて分かったこと ⑤ これから調べること ⑥ 意見交換 (下級生からの質問)	・ 事前に、平和集会実行委員会をつくり、プログラムや進行を、実行委員に任せる。 ・ 進行役の児童が、進行の途中で詰まったりしたときに、教師が支援する。 ・ プレゼンテーションソフトの「発表名人」や「パワーポイント」を活用させ、わかりやすく発表させる。	行動観察表 (教師)  相互評価カード  他者評価 (メッセージカード)
ま と め 5分	3, 平和集会のまとめをする。 ① 平和集会実行委員会で作成した、平和メッセージ「平和の詩『未来に夢をつなげて』」を学年全体で群読をする。 ② 校長先生や下級生からの感想を聴く。	・ 平和学習のまとめとして、「平和メッセージ」を群読する。 ・ 全員の協力で、平和集会ができたことを確認する。 ・ 引き続き、平和学習の深まりを目標とした意欲を持たせる。	行動観察表 (教師)  自己評価カード

7、授業の考察

(1) 成果

- ・ 平和祈念資料館・平和の礎やアブチラガマを見学し、沖縄戦を追い体験することによって、沖縄戦についての興味・関心が高まった。
- ・ 与那原町の戦没者名簿から、戦死場所・戦死年齢・戦死年月日を調べ、地図やグラフ

に整理し、そこから、課題を見つけて調べ学習を展開することが出来た。

- ・全員が自分の課題を持って、グループの一員とし追求活動をし、その成果をプレゼンテーションソフトを活用して、「平和集会」で全校児童に対して、堂々と発表することが出来た。
- ・戦争と平和についてほとんど考える事のなかった児童が、沖縄戦の学習を通して、命や平和の尊さについて、深く考える事ができた。
- ・ポートフォリオ評価を取り入れたことにより、自分の学習の進捗や深度が見え、次の課題追求へつなげることができるようになった。
- ・低学年にも理解しやすいように、発表する内容を何度も検討し、わかりやすい発表が出来た。

## (2) 課題

- ・児童一人ひとりに応じた、教師の支援と評価のあり方。
- ・コミュニケーション能力を高めるための、教科・領域・学級経営を通じた継続的な指導の必要性。
- ・地域や保護者を取り込んだ学習活動の展開の工夫。

## 8. 資料

- ・沖縄県平和推進課 『与那原町戦没者名簿』

